設置基準様式第１号

＜浄化槽工事チェックリスト＞

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検　査　項　目 | チェックポイント | 欄 |
| １.流入管きょ及び放流管きょ | 適切な勾配がとられており、汚物や汚水の停滞がないか。 |  |
| 既存の配管を利用する場合、老朽化による破損等がないか確認しているか。 |  |
| 既存の配管を利用する場合、現行の升の設置等の基準を満足しているか確認しているか。 |  |
| 雨水や排水などの特殊な排水が流入していないか。 |  |
| 放流管と雨水管は別系統となっているか。 |  |
| ２.放流先の状況 | 放流口と放流水路の水位差が適切に保たれ、逆流のおそれはないか。 |  |
| ３.誤接合等の有無 | 生活排水が全て接続されているか。 |  |
| 雨水や工場排水等が流入していないか。 |  |
| ４.升の位置及び種類 | 起点、屈曲点、合流点及び一定間隔ごとにインバート升が設置されているか。 |  |
| 浄化槽からガスが宅内へ侵入しないよう必要な箇所にはトラップ等が設置されているか（宅内との二重トラップになっていないか）。 |  |
| ５.流入管きょ、放流管きょ及び空気配管の変形、破損のおそれ | 管の露出等により変形、破損のおそれないか。 |  |
| 菅の露出が有る場合、露出部分の保護（保護の方法：材質、保護カバーなど）の対策が施されているか。 |  |
| ６.かさ上げの状況 | バルブの操作などの維持管理を容易に行うことができるか。 |  |
| かさ上げをしている場合、かさ上げ高さは30㎝未満であるか。 |  |
|  | かさ上げ高さが30㎝を超えている場合、ピット構造にす点検業者に作業性の確保について確認をしているか。 |  |
| ７.浄化槽本体の上部及びその周辺の状況 | 保守点検、清掃を行いにくい場所に設置されていないか。 |  |
| 保守点検、清掃の支障となるものが置かれていないか。 |  |
| コンクリートスラブが打たれているか。 |  |
| 駐車スペースや車道に設置する場合に支柱工事や耐圧マンホール等の対策がされているか。 |  |
| ８.漏水の有無 | 満水して24時間以上漏水しないか。 |  |
| ９.浄化槽本体の水平の状況 | 水平が保たれているか。 |  |
| 10.接触材等の変形、破損、固定の状況 | 嫌気ろ床槽のろ材及び接触ばっ気槽の接触材に変形や破損はないか。 |  |
| しっかり固定されているか。 |  |
| 11.ばっ気装置、逆洗装置及び汚泥移送装置の変形、破損、固定及び稼働の状況 | 各装置に変形や破損はないか。 |  |
| しっかり固定されているか。 |  |
| 空気の出方や水流に片寄りがないか。 |  |
| 12.消毒設備の変形、破損、固定の状況 | 消毒設備に変形や破損はないか。 |  |
| しっかり固定されているか。 |  |
| 薬剤筒は傾いていないか。 |  |
| 13.ポンプ装置（流入ポンプ及び放流ポンプ）の設置、稼働状況 | ポンプ升に変形や破損はないか。 |  |
| ポンプ升に漏水のおそれはないか。 |  |
| ポンプが２台以上設置されているか。 |  |
| 設計どおりの能力のポンプが設置されているか。 |  |
| ポンプの固定が十分行われているか。 |  |
| ポンプの取りはずしがが可能か。 |  |
| ポンプの位置や配管がレベルスイッチの稼働を妨げるおそれはないか。 |  |
| 配線用配管入口は、配線後にガスの逆流防止のためコーキングを行っているか。 |  |
| 14.ブロワの設置、稼働状況 | 防振対策がなされているか（犬走り等建物基礎に設置していないか）。 |  |
| 固定が十分行われているか。 |  |
| アースがなされているか。 |  |
| 漏電のおそれはないか。 |  |
| 備考欄（上記チェックポイントに対して、特筆すべき措置をとった場合は、その措置内容を具体的に記載） |  |
| 上記のとおり確認したことを証します。　　　　年　　　月　　　日担当浄化槽設備士氏名　　　　　　　　　　　印　（浄化槽設備士免状の交付番号　　　　　　　　　） |